

第34回地盤震動シンポジウム 設計用入力地震動作成指針に向けて

地盤震動研究を耐震設計に如何に活かすか[その5:総括]

<主催> 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

日時 : 11月30日(木) 9:30~17:40

会場 : 建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)

定員 : 200名

参加費 : 会員5,000円, 登録メンバー5,500円, 会員外6,000円, 学生3,000円 *資料代3,000円含む

申込方法 : 当日会場先着順

地盤震動小委員会では、2002年度から「地盤震動研究を耐震設計に如何に活かすか」という中期テーマを設定し、4回にわたりシンポジウムを実施してきた。現在、一連のシンポジウムでの議論を踏まえ、これまで蓄積された地震動評価に関する研究成果を設計実務へ反映させるために、「最新の地盤震動研究を活かした設計用入力地震動作成指針」の出版を企画している。これは本小委員会として初めての試みとなる。

そこで中期テーマの総括となる本年度は、研究及び実務に携わる方々を対象として、指針の作成主旨・内容の紹介を行い、議論いただくためのシンポジウムを企画した。まず指針の概要をご理解いただくために、地震動作成の各要素に関する報告を行う。続いて地震動予測例について、評価結果のばらつきと建物応答計算への適用例を紹介する。「指針に期待するもの」と題した総合討論では多くの方々からご意見をいただき、指針のまとめに反映させたいと考えている。

プログラム

記録: 早川 崇(清水建設)・境 有紀(筑波大学)

9:30-12:10	司会: 飛田 潤(名古屋大学)・高井伸雄(北海道大学)
1 主旨説明 指針の作成目的・使用方法	: 川瀬 博(当小委員会主査/九州大学) 9:30-9:50
【PART 1】モデル構築・予測手法の現状と課題	
2 シナリオ地震の設定	: 加藤研一(当小委員会幹事/鹿島建設) 9:50-10:10
3 震源モデルの与え方	: 芝 良昭(電力中央研究所) 10:10-10:30
4 伝播経路モデルの与え方	: 佐藤智美(清水建設) 10:30-10:50
5 地下構造モデルの与え方	: 藤原広行(防災科学技術研究所) 10:50-11:10
6 用いるべき強震動予測手法	: 釜江克宏(京都大学) 11:10-11:30
7 結果の検証方法	: 野畑有秀(大林組) 11:30-11:50
8 経験的スペクトル評価法による平均波の作成	: 大野 晋(東北大学) 11:50-12:10
- 休憩 -	
13:10-16:25	司会: 小山 信(国土技術政策総合研究所)・佐藤吉之(竹中工務店)
【特別講演】強震動地震学の発展の歴史とレシビへの展開 : 入倉孝次郎(入倉孝次郎地震動研究所) 13:10-14:10	
【PART 2】予測結果の不確定性 結果比較例	
9 予測強震動の手法・モデルによる違い	: 吉村智昭(大成建設) 14:10-14:40
10 海溝型巨大地震のばらつきのモデル依存性の検討	: 関口春子(産業技術総合研究所) 14:40-15:10
11 観測記録とシミュレーションに基づくばらつきの検討	: 森川信之(防災科学技術研究所) 15:10-15:40
- 休憩 -	
【PART 3】構造物からみた予測結果	
12 建物応答計算への適用例	: 北村春幸(東京理科大学) 15:55-16:25
16:25-17:40	司会: 久田嘉章(工学院大学)・岩田知孝(京都大学)
【総合討論】指針に期待するもの 16:25-17:25	
【まとめ】 山中浩明(当小委員会幹事/東京工業大学) 17:25-17:40	